

避難訓練 令和2年10月17日(土) ※雨天時

私たちは何気なく毎日の学校生活、家庭生活を送っていますが、それらは安全な環境が保障されていることが前提です。地震や火事は、短い時間で大切なもの、場合によっては命さえも失ってしまいます恐ろしい災害です。地震や火事によって、建物が破損、消失したり、人間がけがややけどをしたりすれば、授業どころではなくなり、部活動どころではなくなります。今日の訓練では、地震が発生したとの想定で、直ちに身の安全を確保することの指示がありました。

火災の場合は、出火場所により、そこから、いかに遠ざかり、放送や授業担当の先生方の指示をしっかりと聞いて、避難するかが重要になります。それに対して地震は、すぐに避難すればよいというものではありません。地震の揺れの大きさによって、その場に待機することや、避難する場合にも天井からの落下物などに注意しながら避難することが求められます。しかも、学校という多くの人間が生活している場所においては、自分かってな判断によって行動することが、被害を大きくする場合があります。それだけに、放送による指示や授業担当の先生方からの指示をよく聴いて動くことが火災のとき以上に大切になってきます。

私たちは、平成23年3月11日に東日本大震災を経験しました。みなさんが小学校に入学する前ですから、あまりはっきりと覚えていない人もいるかもしれません。

亡くなった方 19,729名,

行方不明者 2, 559名,

R 2. 3. 10現在 総務省消防庁

あれから約10年がたとうとしています、

現在も自宅にもどれず避難生活を送っている人, 42, 842名

R 2. 9現在 復興庁

東日本大震災がいに、

大きな震災だったかがわかると思います。

さて、

天気予報は毎日、テレビや新聞、

インターネットで確認できます。

しかも、かなり正確です。

それに対して、地震予報という情報は、

発生日時を限定して発信されません。

あの東日本大震災のときも、3年以内に70%の確率で大きな地震が発生します、といった予想でした。

地震はいつ起きるかわかりません。

たとえば、

もし、家にいるときに大きな地震が発生し、重いものがあなたのお母さんへの
しかかり、その重いものを取り除こうとしても動かない、

悪いことに火事が発生し、炎が近付いてくる。

親戚の海に近い家ですと津波が近付いてる状況を考えてみてください。

お母さんは「お母さんのことはいいから逃げなさい。」と言いました。

そのような状況で、あなたはどうしますか。

動けないお母さんをそのままにして、その場を立ち去りますか。

それとも、その場でお母さんと一緒に

炎や津波にのまれますか。

どうしますか。

東日本大震災のときも

実際に、その場から自分だけ逃げて助かった人もいます。

その場で母親を何とかしようとして、一緒に亡くなった人もいます。

答えなどありません。

東日本大震災が起きた平成23年3月11日より

1日だけ時計を戻し、何ができたかを考えてみることです。

そして実際にやることです。

それが大震災から得た教訓を生かすということだと思います。